

国際シンポジウム題名	ITMAT 京都大学国際シンポジウム “Biology of Human Diseases Comes of Age”
開催日	令和 6 年 3 月 10 日～ 令和 6 年 3 月 11 日 (2 日間)
主催部局	京都大学大学院医学研究科
協力部局名	
開催地	国名 日本 開催地 京都 会場名 京都大学芝蘭会館 稲盛ホール、山内ホール
共催大学・機関名	ペンシルベニア大学医学部
シンポジウム開催概要	<p>京都大学医学研究科は、ペンシルベニア大学医学部と共に、学術交流協定に基づく教育及び研究における協働活動の一環として、トランスレーショナルリサーチに関する国際シンポジウム ITAMT 京都大学国際シンポジウム “Biology of Human Diseases Comes of Age” を 2024 年 3 月 10 日(日)～11 日(月)の 2 日間に渡って京都大学芝蘭会館にて開催しました。当初は 2020 年の 4 月 17 日(金)～18 日(土)開催予定でしたが、コロナ禍の影響によりやむなく延期となっておりましたが、満を持して対面での開催となり、2 日間でのべ 305 名の参加がありました。また 2024 年 4 月 26 日(金)から 5 月 3 日(金)にかけて、オンデマンド配信を行い、265 回視聴されました。</p> <p>このシンポジウムは、ペンシルベニア大学医学部の Institute for Translational Medicine and Therapeutics(ITMAT)が、毎年米国で行っているトランスレーショナルリサーチの国際的シンポジウムである ITMAT Symposium を、米国外では 2 回目、アジアでは初めて開催しました。</p> <p>先導的なトランスレーショナルリサーチを展開し多大な実績を挙げてきた日米の代表的大学であるペンシルベニア大学と京都大学が中心となって、トランスレーショナルリサーチ分野の国内外の代表的研究者が一堂に会し、がん、免疫、新規治療薬など下記 6 つのセッションから成る、世界的にも学術的インパクトのある、トランスレーショナルリサーチをテーマに、新しい医療分野の展開について活発な議論がなされました。</p> <p>①がん免疫(Cancer Immunotherapy and Immunology) ②幹細胞・ゲノム編集治療(Stem Cell and Gene Editing Therapies) ③新規疼痛治療薬(New Pain Therapeutics) ④ヒト疾患と霊長類生物学(Human Diseases and Primate Biology) ⑤ヒトゲノム科学と AI(Human Phenomic Science and AI) ⑥免疫と感染症及びワクチン(Immune and Infectious Diseases and Vaccines)</p> <p>シンポジウム1日目は、ペンシルベニア大学の Garret A. FitzGerald ITMAT 所長および湊 長博 総長の挨拶で開幕し、①がん免疫、②幹細胞・ゲノム編集治療、③新規疼痛治療薬の 3 セッションが行われ、12 名が登壇し、最新の研究について講演しました。紙面の関係上、ここでは一部の報告のみとしますが、がん免疫のセッションでは、本庶佑特別教授(京都大学)による PD-1 抗体や、Carl June 教授(ペンシルベニア大学)による CAR T 細胞によるが</p>

ん治療等、革新的医薬品の創成に至るまでのお話がありました。幹細胞・ゲノム編集のセッションでは、高橋淳教授(京都大学)によるパーキンソン病に対する細胞治療の臨床試験を含めたお話や、Kiran Musunuru 教授(ペンシルベニア大学)によるゲノム編集の治療応用等についてのお話がありました。午前のセッション終了後には、参加者全員で集合写真を撮影しました。

シンポジウム 2 日目は、④ヒト疾患と霊長類生物学、⑤ヒトゲノム科学と AI、⑥免疫と感染症及びワクチンの 3 セッションが行われ、15 名が登壇し、質疑応答の時間が足りなくなるほど、活発な議論が、1 日目に引き続いてなされました。ここでは講演内容の一部を紹介させていただきますが、霊長類を用いた脳神経系研究について伊佐正教授(京都大学)や Michael Louis Platt 教授(ペンシルベニア大学)が講演された他、坂口志文教授(大阪大学)の制御性 T 細胞や、藤堂具紀教授(東京大学)の遺伝子組換えウイルスを用いたがん治療の開発についてのお話等がありました。最後にペンシルベニア大学の Glen N. Gaulton 副学部長、伊佐 正 医学研究科長による閉会の挨拶をもって、シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じました。

<シンポジウム当日の様子>



集合写真



Opening Remarks、会場風景①



Day 1 講演の様子



Day 2 講演の様子



Closing Remarks、会場風景②

シンポジウム開催報告を
ホームページに掲載してい
る場合の URL

(日) <https://sites.google.com/kyoto-u.ac.jp/itmatkyoto/home>
京大 HP: https://www.oc.kyoto-u.ac.jp/symposium/past-events/past-events_2554/

参加者数(聴衆を含む) 305 人(のべ人数)